

伝統工芸展で文科大臣賞を受賞 宮園士朗さん(鐔作家)に聞く

金工の宮園士朗さんが第五十九回日本伝統工芸展において文部科学大臣賞を受賞された。宮園さんは鐔作家としても知られた方。刀剣界では過去に例のない快挙である。九月十九日、授賞式出席の折にお話を伺った。

(インタビュー/大平将広)

— 今回の受賞、誠にめでたうございます。日本伝統工芸展と言え、残念ながら日本刀は入っていませんが、わが国の伝統工芸を網羅する権威あるコンクールです。

— 応募一八六五点のうち、入選が六一六点、入賞が二六六点という難関の中で文部科学大臣賞は快挙です。ありがとうございます。受賞の話を聞いたのは、市民病院のポイ



昭和26年10月7日、石川県生まれ。ポイラー整備士や空調設備の業務のかたわら金工作品の製作に当たる。日刀保石川県支部副支部長。

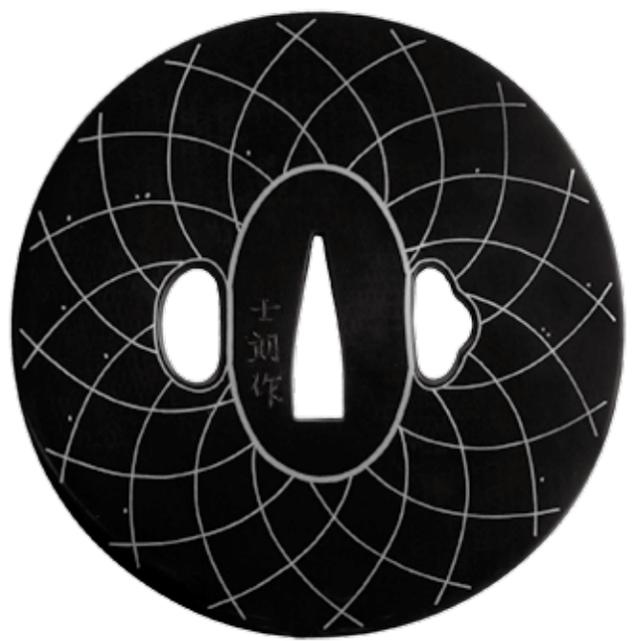


文部科学大臣賞

ちゅうくろ みどうそうがん かき 鑄黒味銅象嵌花器 「心の海」

— 金工の仕事に取り組まれるようになってから、友人と古道具屋巡りをするのが趣味でした。中学生と高校生のとき、刀鍛冶になりたくて当県の隅谷正峯先生を訪ねたのですが、二度とも断られました。「大学を出るまでは来るな!」ということでした。大学では法律を勉強したのですが、本業はそれとは無関係で、必要な国家資格を一通り取り終えたのが四十歳。その後、大阪で行われた日本美術刀剣保存協会主催の刀職技能講習会に参加したのが直接のきっかけです。当時、金工の講師は初回が布袋一師、以後が宮島宏師でした。講習会では銅鍮や鐔・小柄を作りました。ほかに柄下地作りなど、刀にかかわるさまざまな技術に触れました。ここで初めて金工の技術を学び、以後、趣味として続けることになったわけです。その後、平成四年に、日刀保石川支部員で金沢の刀剣店五節堂の後藤隆氏の紹介で、後の人間国宝・中川衛先生にお目にかかることができました。そこで自分が使っている鑿を見てもらったところ、「これは誰に習ったの?」「本を見て作りました」「これでは使い物にならない。明日からうちに来なさい」ということになりました。それから、中川先生の手伝いをしながら、伝統工芸展に出品でき

るような作品を目指して制作し始めたのです。— 中川先生に師事して、最も強い影響を受けたことは何でしょうか。— 「過去の模様は使わない」という教えます。先生は加賀象嵌で認定されていますが、元はデザイナーです。常に新しいものを作るといふ気持ちで制作に挑んでおられる点、私も見習いたいと念じています。伝統工芸そのものが、そうあるべきだとも思います。— 受賞作の鑄黒味銅象嵌花器「心の海」に込めた思いは何でしょうか。— テーマは海。今年に入って、海が持つ穏やかさに一層惹かれるようになりました。そこで夕日が沈み、遠くの方で漁火が輝く様子を題材にしたのです。昨年の大震災で荒れ狂った海が、本来の美しい穏やかな海に戻ってほしいという願いを込めたつもりです。— 制作過程の技術的なポイントをお聞かせ願えますか。— ボディとなる花器は鑄造で、石膏をフリーハンドで削って原型を作り直しました。黒味銅とは微生素を含む銅合金です。そこに金と三種の四分一を使った線象嵌で海を表現しています。銀を使うと線が強くなりすぎるので、白四分一、上四分一、並四分一と使い分けました。四分一はボディの黒味銅より硬いため、使いづらい材料です。— 刀装具の制作は、どのようなお気持ちで取り組んでおられますか。— 刀装具を作るきっかけは、刀を作れなかった代償のようなものと思います。もともと刀も鐔も大好きでしたから。刀装具の制作においても過去にとらわれず、意の赴くままを心がけています。先生方から「それじゃあ使い物にならない」と突っ込まれることもしばしばですが…。



黒味銅象嵌鐔

— 一番気を使うのは銘切りで、自分分は刀匠と違って毎日のように銘切りの練習をしているわけでもないし、元來字を書くことが苦手なため、いつも苦戦しています。— 受賞を機にプロの金工として活躍されるお気持ちはいかがでしょうか。— 全くありません。制作に充てる時間は早朝と日曜日だけです。が、これからも今のペースで作品を作っていくつもりです。— 本日はご多用のところ、ありがとうございました。今後ますますのご活躍を期待しています。

子規仕込み杖 再び輝け



長らく、その存在は知られていなかったが、二〇〇二年春、子規庵敷地内にある文庫蔵で見つかった。朱塗りの竹製の鞘に覆われ、外観も精緻な細工と光沢は保たれているものの、中の刀はさびつき、鞘から外せない状態という。子規の旧宅子規庵や遺品の維持・管理、公開事業などは入庵料でまかなっているが、保存会の資金は決して潤沢ではない。このままでは仕込み杖の刀は鞘の中で朽ちてしまう」と高橋さん。集めた寄付金は、刀研ぎと保存費用に充てる。特別展「子規遺品展」は三十日まで、午前十時半～午後四時、休日は、十、十八、二十四日、入庵料五百円、問い合わせは、子規庵保存会(電話03-3876-8218)へ。

台東の保存会 修復費募る

俳句や短歌のみならず詩歌や随筆なども日本近代文学に大きな影響を与えた子規は、一八六七(慶応)が講義用に携行した。三〇年、四國・松山藩士の子に生まれた。十六歳で上京。二十五歳の時、日本新聞社に入社。社長が、その三年後に従軍記者として戦地に赴く際、旧藩主久松侯からもらったとされる。仕込み杖は、外見で刀と

特別展で公開 刀身さび 鞘から抜けず

「東京新聞」平成24年9月5日。掲載の刀は登録済み。銃刀法では仕込み杖の状態では所持できない。

刀剣・小道具・甲冑武具
目白 飯田高遠堂
代表取締役 飯田慶久
〒161-0033
東京都新宿区下落合3-17-33
TEL 03-3951-3312
FAX 03-3951-3615
<http://www.iidakoendo.com>

(株)美術刀剣松本
松本 富夫 義行
〒278-0043 千葉県野田市清水199-1
TEL 04-7122-1122
FAX 04-7122-1950
www.touken-matsumoto.jp

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑
日本の伝統文化を彩る
JAPAN SWORD CO., LTD.
(株)日本刀剣
伊波賢一 Ken-ichi Inami
〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-8-1
TEL 03-3434-4321
FAX 03-3434-4324

銀座 泰文堂
〒104-0061 東京都中央区銀座4-3-11
松崎煎餅ビル4階
(株)銀座泰文堂 代表 川島貴敏
TEL 03-3563-2551
FAX 03-3563-2553
フリーダイヤル 0120-402037
<http://www.taibundo.com>

刀剣 高吉
古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください!
連絡先 090-8845-2222
代表者 高島吉童
東京都北区滝野川7-16-6
TEL 03-5394-1118
FAX 03-5394-1116
www.premi.co.jp

刀 剣 界



風向計

其之四

深海 信彦

景気に関する最近の報道を見ると、景気動向指数をはじめとする主要経済指標のほとんどが悪化傾向にあり、まさに日本経済の先行きは暗いと言わざるを得ないが、過去に何十年さかのぼってみても、景気は拡大と後退を繰り返すのが常で、景気の下方修正がさまざまが業界に影響するものでないことは、過去の例からも明らかである。

景気転換点は、拡大期から後退期への山と、後退期から一転して拡大期を迎える谷とがあり、最近の日本経済はリーマンショックを挟んだ平成二十年三月から一年間景気後退の後、二十一年四月から景気拡大局面が続いていたとされ、本年二十四年四月以降は後退に入ったという。しかしわが業界に限ってみると、リーマンショック以来、相場が下落して同業者のマインドも縮小し、デフレ傾向からの脱却が図られておらず、とても三年前から景気拡大局面の恩恵を受けているとは実感できない。業界の景況は相変わらず底辺を

推移しているが、このようなことは過去に何度もあり、他業種に比べれば危機的な状況とはほど遠い、恵まれた環境にあると言えよう。

今年の春以降、業界の規模が縮小したかのように感じるのには、決して景気のせいばかりではないであろう。業界内の特殊事情、つまり廃業者の続出を見ただからであり、このようなことは好況期にも起こり得ることであり、ネガティブに考え過ぎないことである。なぜならば、業界の不安とは裏腹に、われわれの顧客ははるかにポジティブな思考の持ち主である場合が多いからである。

好不況にかかわらず、刀剣・鐔小道具・甲冑類を趣味としてこれを収集するわれわれの顧客は、世に言う「勝ち組」の富裕層で、自らの余裕のある資金でモノを買い、決して無理をしない健全思考の人が多く、高額商品になればなるほど、その傾向が強まる。カードを使う顧客も資金がないからではなく、欧米

型の習慣による場合が多く、ラインを利用する人も堅実な資金計画に基づいて購入しているものである。

それ故に、デパートやスーパー等の小売業とわれわれの業種が同日に論じられるものではなく、どのような時代になっても勝ち組の富裕層を相手の商売であるが故に、長いスパンでの山と谷はあっても、成り立っていないかなる場合はないのである。現に、今年の「大刀剣市」の入場者数は昨年の二千八百七十八人を上回る二千九百九十六人(いずれもチケット入場者数)を数え、愛好家そのものが減少していない事実はいわゆる業界最大の強みでもある。

業者がいくら張り切っても、笛吹けど踊らずという顧客の状況が続くならば展望はないが、値段次第では買つという多数の積極的な顧客を前にして自ら萎縮していったのでは話にならない。リーマンショックならぬ業界特殊事情ショックから一日でも早く立ち直り、このありがたい商売に前向きに取り組みべきではなからうか。既にそのように軌道修正している業者もいる。遅れてはならない。

● 交換会紹介 ●

【平成会】

平成会は、平成元年に故山崎昭氏が高田馬場の諏訪神社で開催していた諏訪会を発展的に継承し、共同会に改めて設立されました。初会以来、朝倉万幸氏(株永和堂)が代表幹事を務められ、前身の諏訪会から数えますと今日まで30年の歴史を誇る交換会です。正会員は約60名。毎回50名ほどが出席して威勢よく売買を行っています。

次世代を担う若手刀剣商が発句やせりを任せられ、会を盛り上げていることが特筆されます。会場=東京美術刀剣商業協同組合事務所 東京都港区新橋4-9-1 新橋プラザビル1401号室 開催日=毎月10日、午前10時30分開会(売り番抽選) 事務局=服部美術店・服部晝治 ☎03(3274)5170 (松本義行)



組合こよみ (平成24年9月~10月)

- 9月1日 銀座刀剣倶楽部会場にて「大刀剣市」広告打ち合わせ。出席者、清水専務理事・伊波常務理事・齋藤常務理事。
- 1日 『刀剣界』第7号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・川島副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・嶋田理事・網取理事・服部理事・持田監事・飯田慶雄氏・大平将広氏・生野正氏・新堀賀将氏・藤岡弘之氏・松本義行氏・宮澤琢氏・土子民夫氏。
- 3日 同美印刷にて「大刀剣市」図録再校。出席者、清水専務理事・高橋理事・服部理事・持田監事・生野氏・土子氏。
- 5日 銀座長州屋にて『刀剣界』第7号再校。出席者、深海理事長・網取理事・服部理事・土子氏。
- 7日 組合事務所にて義援金寄付の件および広告掲載につき打ち合わせ。出席者、清水専務理事・伊波常務理事・服部理事・産経新聞社石坂氏。
- 10日 同美印刷にて「大刀剣市」図録色校。出席者、清水専務理事・網取理事・服部理事・冥賀理事・小林君夫氏・土子氏。
- 13日 同美印刷にて「大刀剣市」図録念校。出席者、清水専務理事・嶋田理事・小林氏・土子氏。
- 14日 深海理事長・清水専務理事・嶋田理事・高橋理事が読売新聞社を訪問し、全国学校図書館協議会理事と面談、義援金150万円を寄託。
- 17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加55名、出来高15,240,500円。
- 17日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第8号編集委員会を開催。出席者、深海理事長・清水専務理事・伊波常務理事・嶋田理事・網取理事・服部理事・冥賀理事・持田監事・飯田氏・大平氏・生野氏・新堀氏・松本氏・宮澤氏・土子氏。
- 28日 深海理事長・清水専務理事・齋藤常務理事・冥賀理事が産経新聞社を訪問し、義援金200万円を寄託。
- 10月17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加58名、出来高16,040,700円。
- 17日 東京美術倶楽部にて理事会を開催。出席者、深海理事長・川島副理事長・猿田副理事長・土肥副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・齋藤常務理事・飯田理事・新堀理事・網取理事・服部理事。
- 17日 「大刀剣市」開催の件で伊波・齋藤両常務理事が愛宕警察署を訪問。
- 26~28日 東京美術倶楽部にて「第25回大刀剣市」を開催。チケット入場者数2,996名、「明美ちゃん基金」への寄託金160,148円。
- 29日 東京美術倶楽部にて開催された特定商取引についてのヒアリングに伊波常務理事が出席。

刀剣商リレー訪問 8

網取讓一さん

古き良き昭和が漂う銀座のお店

銀座二丁目にあります「福隆美術工芸」の店主、網取讓一さんをお訪ねしました。

網取さんは、三十年近くこの場所でご商売をなさっています。

創業は昭和四十年代、お父さまの代です。そのお父さまが若いころ日本画家を目指されていたので、網取福隆の作家名をそのまま店名にしたそうです。

当初は主に骨董品や、兄弟弟子など現代の絵画を扱っていたそうですが、その後、刀剣と書画に専門化していき、讓一さんの代で甲冑が増えて今に至っています。

昭和通りは道幅も広く交通量の多い場所ですが、通りに面した網取さんのお店の建物は昭和二十年に建てられたそうです。以前は和菓子屋を経て麻雀クラブだったそうですが、店頭に立つと一瞬、古き良き昭和にタイムスリップしたかのような印象に襲われます。お店に入ると、麻雀クラブの時代に使用されていた机と椅子が、そのまま現役で残っていました。

閉店時間が来るといういろいろなワインが出され、網取さんの蘊蓄が聞かれます。私も回数を数え切れないほどご馳走になっています。

銀座の真ん中で、戦国武将たちの着用した甲冑に囲まれて飲むお酒はとても味わい深く、つい飲み過ぎてしまい、電車で乗り遅れそうになったこともたびたびありました。

若い網取さんです。そんな網取さんに親しみを感じ、若い人が何度も来店してくれることが格別うれしそうです。



福隆美術工芸と網取讓一さん

お店 〒104-0061 東京都中央区銀座三二一-14 ☎〇三三五四一八二〇九 (菊一純平)

若者広場

熊倉純子

奥深い柄巻きの技を究めたい

高校からデザイン専門学校へ。卒業後、家業を手伝っていき、刀装具や拵に興味が出てきました。もともと絵画や工芸に興味があり、作ることも好きでした。

罫や縁頭などの彫金にはすごい技術が込められている、いつも感心しておりました。小さな空間に魚子をぎゅーしりと打ち、花鳥風月や山水、風物などを精緻に色金で表現する技術には、全く感心します。よくもこんなに細かな細工ができるものと、見るたびに思います。

柄巻きを始めるきっかけは、公益財団法人日本刀文化振興協会の「刀職者技術研修会」を知り、参加したことです。

柄巻きは全くの初歩で、糸の撮り方や道具の使い方など、基礎から教えていただきました。糸にも組み方や色、幅などかなりの種類があり、巻き方にもさまざまなたがって、当初は戸惑いました。

古い拵の写真集を見ますと、



☆連絡先 〇〇750082 東京都板橋区高島平 五二一 大東美術内 〇〇三三三九三三三

柄巻きにもさまざまな種類がある、驚きです。当時の侍の心意気を、わずかでもつかいがい知ることができると嬉しいです。

柄巻きを始めてから数年がたちますが、まだまだ修業が足りず、師匠にもたくさん学ばなくてはなりません。柄巻きの仕事には、糸を巻くだけでなく、柄下地や鮫皮の巻き付け、縁頭との調整などいろいろあり、それぞれに拵があって、全部習得するには相当な時間がかかりそうです。

長野県坂城町の「鉄の展示館」には幾種類も柄巻きが展示してありましたが、あのような巻き方ができることを目標に励んでいきたいと思えます。

■一筆啓上

まずはお食事の方、ごめんなさい。今から数年前の大刀剣市最終日の夕刻。東京美術倶楽部のトイレの個室で、古美術成蹊堂店主、松川浩一郎氏がかねてからの便秘と戦い悶絶していた。やっと解消されそうなのの中、「オレの仕入れは間違ってる、オレの仕入れは間違ってる、オレの仕入れは間違ってるー」と耳をつんざくような三回リピートの叫び声を個室のすべ外に聞き、松川氏は出すものも出さず、あ

私が出会った珍品 〈火縄銃〉



全長102cm 銃身長67cm 口径8.5cm 総重量35Kg
銘 肥後同田貫内田軍八宗頼造之/慶應四辰五月日/二

本作は江戸時代の最末期、慶応四年(一八六八)五月すなわち明治元年に、肥後熊本の同田貫内田軍八宗頼によって作られた在銘で象嵌のある大筒。とても重量があり、一人で抱え上げるのは非常に困難です。

資料によれば、内田軍八宗頼は同田貫の中興九代正勝の子に当たり、兄の寿太郎(十代宗広)が刀匠を継ぎ、弟の正頼・宗頼は鉄砲鍛冶として名を馳せている。

同田貫一派は刀鍛冶として著名であり、火縄銃で在銘のもものは大塚希少である。本作は台座に大名家の家紋「隅立四目結」が入り、銃身には総体に金銀黄銅を駆使して龍の見事な象嵌を施している。

銘文に「二」とあり、これら対のものであると判断でき

る。一書によれば、同年紀、同作者で同じ長さの「一」という大筒があり、これには龍と琵琶を抱く弁才天の象嵌が施されている。

対での製作は大変珍しく、おそらく大名家の注文と思われる。果たして実戦に用いられたか、どれだけの威力を発揮したか定かではないが、いずれにしても幕末の騒然たる世相の中で生まれたものである。

私たち美術商は扱うそれぞれ品の背景を調べ、その素晴らしいさを後世へ伝えていくべきであり、私も今後また新たな品物と出会えたら、その歴史を愛好家に理解していただき、お渡ししていきたいと思えます。そのためにも、日々の勉強の必要性を痛感します。

(新堀賢将)

に習った人に、当組合員の開好堂店主、米川好次氏の奥様良子夫人もおられる。もちろん熊倉さんの良き相談相手であろうことは想像にたやすい。

若者のコラムなので、純子さんに脚光を当てたことをここにお断りしておく。そうそう、若い女性の紹介文なのにトイレの話から入り、本当にごめんなさい。

(網取讓一)

刀職紹介

第8回

〈刀匠〉月山貞利さん



刀匠の月山貞利(本名清)さんは、昭和二十一年生まれの六十六歳。重要無形文化財保持者である二代月山貞一師の三男として生まれました。鎌倉時代から続く月山鍛冶の末裔として、戦後、製作禁止という刀匠にとって未曾有の苦難に遭遇してもなお諦めることなく、刀の技と魂を伝えてきた父の背中を見て育った貞利さんは、「自分の代で、八百年にわたって受け継がれてきた貴重な技術を絶やしてはならない」と、大学卒業と同時に刀匠として生きていくことを決意しました。

父について一から鍛刀技術を学んだ後は、高松宮賞や文化庁長官賞など数々の特賞を受賞し、昭和五十七年無鑑査に認定されました。平成七年からは十二年間、全日本刀匠会の会長を務めるなど、斯界の人望も厚く、現在は同会の名誉会長を務めておられます。

平成七年には、新たな鍛刀道場とともに月山記念館を開館、毎週土曜日には道場の一角と記念館を無料で開放し、刀剣界の裾野の拡大に努めておられます。記念館には、多い日で三百人以上の来館者が訪れ、海外からのお客さまも年々増えているそうです。最後に、貞利さんはおっしゃっています。

「刀匠の家に生まれたのは運命。この道を志して四十四年になります。が、まだまだ先代の足元にも及びません。初代貞一は一生修業と言っていたのですが、私も生涯をかけて作刀に精進してまいります。また刀剣発展のため、微力ではありますが尽力してまいります」
連絡先 〇〇6330073
奈良県桜井市茅原二二八八
〇七四四一三三三〇

〈研師〉黒田守寿さん



研師の黒田守寿さんは、昭和二十三年生まれの六十四歳。大分県臼杵市で、研師黒田寿生さんの長男に生まれました。

重要無形文化財保持者であった小野光敬師に入門。十年間の修業を経て、昭和五十一年に福岡で独立されました。その後は、刀剣研磨・外装技術発表会において木犀屋や竹屋などの特賞を九回受賞、平成十二年に無鑑査認定を受けています。

九州国立博物館はじめ福岡市美術館、鹿児島県歴史資料センター黎明館など地元九州各地の博物館・美術館所蔵刀剣類の研磨を数々手掛けられ、海外でも大英博物館やメトロポリタン美術館などの仕事をされています。

黒田さんが刀を研ぐには、日々全身全霊で臨み、なるべく刀を減らさないように悪い部分を伏せ、良いところを出し、刀の持ち味を保ち、時代に合わせた研ぎを行い、刀の鋭さと深みを出すことに心掛けるということです。

研磨代金は、刀身の状態にもよりますが、基本的には一寸二万円からお受けしています。

連絡先 〇〇81200871 福岡県福岡市博多区東雲町一四一五
〇九二五八一七二八
(川島貴敏)

■前号の「刀職紹介」で紹介した研師・小此木光臣さんの電話番号に誤りがありました。正しくは、
〇二七六六一五二一三四五九
です。
お詫言して訂正します。

刀剣・書画・骨董
和敬堂
土肥富作・土肥豊久
〒940-0088 新潟県長岡市柏町1-2-16
TEL 0258-33-8510
FAX 0258-33-8511
<http://wakeidou.com/>

刀 剣 界

ブック・レビュー BOOK REVIEW

日本刀の新たな可能性を示す

『エヴァンゲリオンと日本刀』

全日本刀匠会事業部／角川書店編 一五〇〇円

備前長船刀剣博物館での特別展「エヴァンゲリオンと日本刀」は大盛況のうちに幕を閉じた。約二カ月の会期中、観客四万七千余人が訪れたという。今回のテーマである現代アートと、日本を代表する伝統工芸品日本刀とのコラボレーションは、エヴァンゲリオンの何なるかも知らず、また一方で日本刀の知識の薄さ、若者からお年寄りまで幅広い方が楽しめる(正直、筆者もエヴァンゲリオンについての知識は皆無であったが、普段の日本刀展示とは全く別の異様な熱気に驚き、感化された人間の一人である)。

本展の図録を開いて最初に感じたことは、これは全く新しい現代アート本であるということである。

現代的日本文化である漫画の仮想世界に登場する武器を、日本刀製作技術を駆使して具現化することは、今までの伝統を逸脱しているため賛否両論があるが、私は日本刀の新しい「姿」と可能性をこの図録に垣間見ることができた。

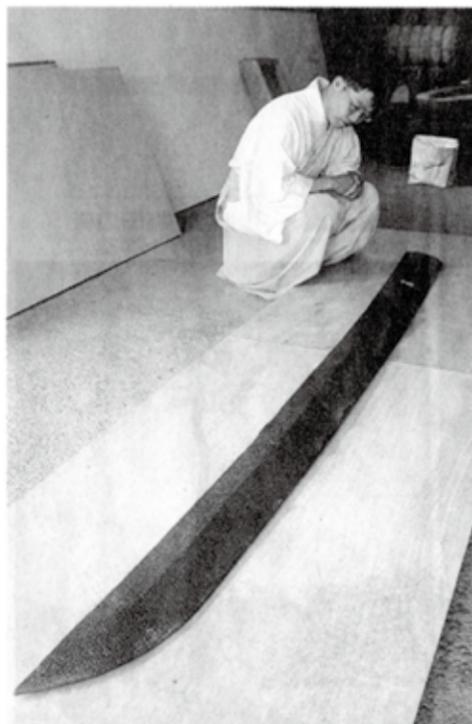
日本刀とはまさに日本の歴史そのものであり、その時代の戦闘様式や文化・風習などによって、反り・長さ・形などの姿を変えてきた。その日本刀の「姿」の歴史が幕末から明治、昭和へと日本国の流れとともに変化し、そして戦後六十余年、現代において全く新しい「姿」に変わろうとしている。

図録所載品には現代刀匠と刀職の全く違う世界観への葛藤と挑戦により、日本刀に固有の気品と品格、尊厳が確かに存在し、見事に現代アートとの融合を果たしている。

革新とは、既存の価値観とは全く別のものが生まれることであり、日本刀が「未来」を見据え「姿」を変え、存在し続けるために全く別のアプローチを模索しているかに感じられる新しい現代刀剣アート本と言えるだろう。

本書は展覧会図録であって市販しないということであるが、どうやら全国各地で巡回展が開催されるらしいから、その折の入手を期して紹介した。

(玉山真敏)



日光 荒山神社中宮祠に保管されている折れた大剣。栃木県日光市で

男体山の象徴 栃木男性寄付

今年開山千二百三十年を迎えた栃木県日光市の男体山(標高二、四八六尺)で、山頂のシンボルとして親しまれながら、今春に折れた鉄製の太剣が、同県下野市の男性社員の善意によりステンレス製の新品として復活する。

(石川徹也)

日光

大剣は長さ約三・六尺、幅約十五寸。一八七七(明治十)年、茨城県結城地方の人が奉納したとされる。今年三月、根元部分を残して折れているのを登山者が見つけた。腐食が原因とみられる。

山を管理する日光二荒山神社中宮祠は、再び折れる危険性があることから修復を断念。これをニュースで

大剣 ステンレスで復活

知った下野市の男性(五〇)が、新たな剣の奉納を申し出た。

男性は、自分が勤める鉄工会社に製作を依頼。さびにくいステンレスの板を大剣の形にくりぬき、表面にクロムメッキを塗って日本刀のように仕立てる。来月七日の大安の日に奉納し、同十三日に備え付けられる予定だ。

男性は匿名を希望し、「小さいころから毎日眺めていたふるさとの山。剣が折れたことはずっと気になっていた。厚かましいと思っただけ、東日本大震災の国土鎮護を願い、へそくりから資金を出すことにした」と控えめに話す。

中宮祠では「大変ありがたい話で、最高の喜び。開山千二百三十年を機にこれからのシンボルとなれば」と感謝している。折れた剣は、中宮祠の宝物館倉庫に保管。日光二荒山神社は、同館で開催中の「宝刀展」(十一月四日まで)での展示を検討している。

イベント・レポート

第二回広島「KAZARU展」 地域から伝統工芸の振興を図る



「べんせい、しゅくしゅく、夜、川を渡る…」という詩吟「川中島」や『日本外史』の作者、頼山陽を顕彰した頼山陽史料資料館で、公募工芸コンクール広島「KAZARU展」が九月二十三日、好評のうちに閉幕した。

同展は、広島市立大学・広島大学・日本刀初心者入門講座「三慶会」と頼山陽史料資料館の有志が協力し、実行委員会を結成して開催したもの。伝統工芸品も海外制作の輸入品との国際競争の時代を迎えている。そこで、地方の技術の継承と挑戦者の発掘・育成、地域活性化を目指し、一般人も交えて地域の伝統的工芸と刀装・刀装具から学ぶ機会を創り、頼山陽史料資料館を会場に、成果発表の同展を立ち上げて二回目となる。

今回は、文化庁の「文化遺産

公益財団法人日本刀文化振興協会 第六回特別鑑賞会を開催

平成二十四年九月二十五日、東京の目白庭園・赤鳥庵において公益財団法人日本刀文化振興協会主催の第六回特別鑑賞会が開催された。

同財団はその名の通り、日本刀文化の振興を目的に、隔月で初心者を対象にした鑑賞会を行っているが、玄人向きにもっと踏み込んだ鑑賞会を開いてもら



今回は重要美術品認定の備前国雲重をはじめ、藤四郎吉光、備前三郎国宗などの名品が集められた。会場運営は有志の若手刀職者たちを中心に行われた。講師に元文部科学省文化審議委員・広井雄一氏を迎え、展示品の作域や見どころをはじめ、本間薫山先生が鑑定会で使用し、「天狗の鼻折り」と称された義助の作品を手に、当時のエピソードを紹介するなど大変充実した内容となった。

を活かした観光振興・地域活性化事業」に採択された。認知度はまだ低いですが、来場者には「一人が来なくても、続けてください」と言う熱烈的なファンや、伝統を学ぶ場と、異なる発想で作った作品の発表の場があるって嬉しく、楽しいという工芸作家も出てくるようになった。

来年は、菓子博で、開催時期が少し遅れる予定。勉強会に参加したい方は、左記へお問い合わせください。

頼山陽史料資料館
☎〇八二五四二七〇二二
E-mail info@raisanyou.com
参考ブログ <http://kazarten.blogspot.jp/> (三上高慶)

鑑賞刀は次の通り。

- 重要美術品 太刀 雲重
 - 重要美術品 太刀 延寿国寶
 - 太刀 備前三郎国宗
 - 短刀 吉光
 - 短刀 来国光
 - 短刀 義助
 - 短刀 左安吉
 - 刀 藤島友重
 - 刀 兼元(僧正孫六兼元)
 - 刀 津田越前守助広
 - 刀 長曾祢興里入道庸徹
 - 脇指 長曾祢興里入道庸徹
 - 刀 清人
 - 脇指 国広
 - 脇指 源正雄
- 次回鑑賞会は十一月六日(火)に予定されており、詳細は同協会ホームページにその都度掲載される。<http://www.nbsk.jp.org/>

(飯田慶雄)

■放映予告 BSフジ ガリレオX「鉄と刀—古くて新しい鉄に迫る」 放送12月9日(日)朝9時30分～10時 再放送12月16日(日)朝9時30分～10時
→8ページから続く

■放映予告 BSフジ ガリレオX「鉄と刀—古くて新しい鉄に迫る」 放送12月9日(日)朝9時30分～10時 再放送12月16日(日)朝9時30分～10時
①古い鉄ほどよく切れる? (日本刀の謎)、②鉄であって鉄でない99.9989%の高純度鉄、③失われた製鉄技術「大鍛冶」の再現(包丁鉄)、ほか

横浜市歴史博物館

〒224-0003 神奈川県横浜市都筑区中川中央1-18-1 ☎045(912)7777

特別展「畠山重忠—横浜・二俣川に散った武蔵武士—」

元久2年(1205)、横浜市旭区の二俣川において壮絶な最期を遂げた畠山重忠は、人格・体力・容姿ともに優れた武士と伝えられ、武蔵武士・関東武士を代表する存在です。

重忠は、武蔵国で大きな勢力を誇った秩父平氏の出身で、長寛2年(1164)、畠山館で誕生しました。重忠は治承・寿永の合戦(源平合戦)で活躍し、また鎌倉幕府に仕え、頼朝の右腕として手腕を発揮しましたが、幕府の権力闘争の犠牲となりました。

『平家物語』や『吾妻鏡』などは、重忠に関する数々のエピソードを伝えています。これらの中には、史実でないものもあります。しかし、彼の篤実な人柄と武勇は多くの人々に受け入れられ、現在も多くの人々に伝承・史跡を伝えています。

この展覧会では、畠山重忠の生涯と人物像をたどるとともに、大鎧を中心とした武士の装いをはじめ、平安時代末から鎌倉時代初めの武蔵武士をめぐる諸相を紹介します。また、後世において畠山重忠像がどのように作られていったのかも探ります。

会期：10月13日(土)～11月25日(日)
月曜休館

〈主な展示資料〉

- ・宝寿丸・黒漆鞘(武蔵御嶽神社蔵 重要文化財)
- ・法住寺殿跡出土遺物(木下美術館蔵 重要文化財)

- ・蔵 重要文化財)
- ・長覆輪太刀(馬場都々古別神社蔵 重要文化財)
- ・赤糸威鎧残闕(馬場都々古別神社蔵 重要文化財)
- ・鉄二十八間四方白星兜(神奈川県立歴史博物館蔵 重要文化財)
- ・金沢貞顕書状(称名寺 神奈川県立金沢文庫保管 重要文化財)
- ・赤糸威大鎧(復元)
- ・紫裾濃威鎧(復元)
- ・一の谷合戦図屏風(馬の博物館蔵)



ながの東急百貨店 別館シェルシェ5階ホール

〒380-8539 長野市南千歳1-1-1 ☎026(226)9609

宮入小左衛門行平 一門展

先代宮入行平が遺した宮入鍛錬道場を引き継ぎ、30年余が過ぎました。作刀にひたすら取り組み、その意味を問い続け、かたちにする事に始終する中、いつしか私の門を叩く若者たちが集まるようになりました。私の作刀に対する思いに何かを感じ、それぞれの個性として花開く姿を見ることは嬉しい限りです。

また、良い刀を作ること同様に、後継者の育成に情熱を注いだ先代行平の遺志も、多少なりとも継承することができたものと思います。技術の伝承、その成果を実感してくださいますよう、ご高覧を心よりお待ちしております。

(宮入小左衛門行平)

会期：11月9日(金)～14日(水)



◆◆東京刀剣倶楽部懇親ゴルフコンペのご案内◆◆

東京刀剣倶楽部では業界関係者の懇親を目的に、毎月ゴルフコンペを開催しており、刀剣商のほか、刀職・業界関係者の多くの方々が参加し、交流を深めております。まだ参加されたことのない方々にもぜひご参加いただきたく、ご案内します。

誠に勝手ながら、都合上、参加者は全国刀剣商業協同組合の組合員と賛助会員に限らせていただきます。

なお、今回は11月28日(水)、紫カントリークラブ(千葉県野田市目吹111 ☎04-7124-1166)にての開催となります。ご興味がおありの方は、下記までご連絡ください。

東京刀剣倶楽部事務局 〒161-0033 東京都新宿区下落合3-17-33 (有)飯田高遠堂・飯田慶雄 ☎03(3951)3312

◆◆おめでとうございます◆◆

福田千恵画伯が葛飾区名誉区民に

文化振興などに功績があったとして、東京都葛飾区は日本画家で日本藝術院会員の福田千恵さんから4人を名誉区民に選び、10月1日の区制80周年記念式典で表彰した。



福田さんは昭和21年、愛刀家であった福田勲氏の長女として東京で生まれた。佐藤太清画伯に師事し、日展無鑑査・同審査員などを経て、平成21年、日本藝術院会員に任命された。

前々から刀剣界との関係が深く、隅谷正峯・天田昭次両刀匠を描いた大作もある。研師本阿彌光洲さんがモデルの「研磨」は伊勢神宮に奉納されている。(T)

新堀賀将さん・裕子さんがご結婚

9月9日、新堀賀将さんと裕子さん(旧姓馬場)の挙式と披露宴が、東京銀座の「THE MAGNUS TOKYO」で行われました。

賀将さんは、横浜市で新堀美術刀剣を経営する新堀孝道氏の三男で、本誌の編集委員でもあります。孝道氏は毎月15日に開催される「新橋会」の、そして長男の徹さんは25日の「愛宕会」の代表です。また、次兄の篤史さんは姫路市の前田幸作師の元で鞘師修業をされていますから、新堀家は文字通りの刀剣一家です。

新婦の裕子さんは、都内の会社ソシエワールドのエステ事業部に勤務され、同僚からの信頼も厚い、明眸皓齒という形容がぴったりの方です。

披露宴もたけなわのころ、会場では「賀将ガンバレ!」のかけ声も聞かれました。ご多幸をお祈りします。

(齋藤隆久)

東京藝術大学附属図書館貴重資料展

後藤家文書—刀装金工の鑑定と記録

十月一日から二十七日まで、東京藝術大学附属図書館において刀剣界にとって非常に価値のある資料展が開催された。

江戸時代、幕府お抱えの金工一派であった後藤家に、大名などが持ち込んだ刀装具の鑑定記録が「極帳」である。このとき後藤家が発行した鑑定書である折紙は、「折紙付き」という言葉の語源となった。

本展ではこの極帳が、博物館に現存する刀装作品の写真と合わせて展示された。克明な鑑定記録である極帳は、金工史上における価値は言うに及ばず、江戸の記

録文化をも浮き彫りにしてくれる。また極帳に貼付された実物大の精密な図版は、それ自体美しく、ミクロの世界を描く美術作品としても楽しむことができる。

極帳を含む膨大な量の後藤家文書は寄贈された当初、激しい虫損や汚れのため公開することができなかったが、現在は附属図書館の年次計画画保存プロジェクトにより蘇りつつあり、今回は特に損傷の激しかった文書の修復過程写真もパネル展示し、文化財保存の技術とその重要性を併せて伝えている。



後藤家の極帳が東京藝術大学に保存されていることは以前から承知していたが、これまでの修復がなされていたとは初耳であった。本帳簿は刀剣界においてきわめて重要な研究資料である。(飯田慶雄)

り、これらの保存事業を地道に行いながらも声を大に発表することなく、図書室にひっそりと展示する同館の奥ゆかしさには、さすが東京藝術大学と敬服するばかりである。(飯田慶雄)

第34回大阪刀剣まつり 関西を中心に十八店舗が出店

今回で三十四回目を迎える「大阪刀剣まつり」が去る十月十九日(金)から二十一日(日)まで堺市産業振興センターで開催された。後援は大阪美術刀剣業組合と全日本刀匠会近畿支部。

期間中、会場内にて刀剣・小道具の無料相談、無料評価鑑定、関西地区の愛好家にはよく知られた催事とあって、連日、外国人を含む多くのお客さまで賑わった。出店は左記の十八店。

勇進堂・大阪刀剣会・橋本商店・伯永堂・刀剣小林・蔵屋はしもと・五節堂・雅・新堀美術店・南紀刀剣店・アートコレクシオンムラカミ・(有)聚楽・儀平屋・泉舟堂・大宝堂・龍峯庵・刀啓堂・(株)むさし屋 (新堀賀将)

買取相談、銃砲刀剣研究会による有料審査も行われた。また、日ごろはなかなか見られない、塗師(服部健司氏)と鞘師(曾我部明氏)の両職方による実演も行われ、好評だった。



